

提言第 2 号 急性肺血栓塞栓症に係る死亡事例の分析

事例番号：事例7

< 事例概要 >

精神科

- ・ 統合失調症、希死念慮のため医療保護入院とされた 40 歳代の患者。BMI 27
- ・ 自傷行為予防のため四肢体幹拘束を施行。向精神薬服用中。
- ・ 体幹拘束中は弾性ストッキングを着用。入院 5 日目に胸痛があり心電図検査で異常所見があった。症状が消失したため経過観察。入院から約 3 週間後、開放観察開始の 30 分後、トイレで倒れているところを発見され、救命処置を行うが、心拍再開せず死亡。解剖により、急性肺血栓塞栓症と診断。